

東京駅八重洲口開発 新築ビル等の名称決定について

記者各位

当社(社長:西尾 進路)が、東京駅八重洲口において東日本旅客鉄道株式会社、三井不動産株式会社、鹿島八重洲開発株式会社、株式会社国際観光会館と共同で進めております東京駅八重洲口開発につきまして、このたび、ビル(南棟・北棟)、中央部大屋根および街区の名称が下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. ビル名称:

南棟/GranTokyo South Tower(グラントウキョウ・サウスタワー)

北棟/GranTokyo North Tower(グラントウキョウ・ノースタワー)

英語のgrand(壮大な、最高位の)から命名しました。首都東京の新しい顔として、世界に開かれたビジネスの一大交流拠点としての機能を有する、真のプレステージタワーとなるように、との願いが込められています。なお、当社は、南棟の14階から18階の区画を保有することとなります。(14階は、鹿島八重洲開発株式会社との共有となります。)

2. 中央部大屋根名称:GranRoof(グランルーフ)

英語のgrand(壮大な、最高位の)、roof(屋根)から命名しました。全長240メートルにおよぶ大屋根が、壮大なスカイラインを生み出し、これまでにないランドマークとなります。このGranRoof(グランルーフ)が、首都東京の新しい顔として、あらゆる人々の交流の場になるように、との願いが込められています。

3. 街区名称:Tokyo Station City(東京ステーション シティ)

「駅が都市を変える。駅が都市になる。」というコンセプトから命名しました。八重洲口開発事業、丸の内口駅舎の保存・復元事業および日本橋口開発事業という『大東京駅プロジェクト(Grand Tokyo Station Project)』によって、伝統を守りながら、革新を続けている東京駅。その東京駅および周辺開発エリアを包括してTokyo Station City(東京ステーション シティ)と名付けました。

駅を中心にして、人が集い、情報が行き交い、文化が生まれる。Tokyo Station Cityは単なる通過点ではなく、丸の内の伝統と八重洲の先進性を併せ持ち、新しい文化がそこで発信されるような世界で一番の駅、街になるように、との願いが込められています。

【東京駅八重洲口開発 完成予想図】

全景

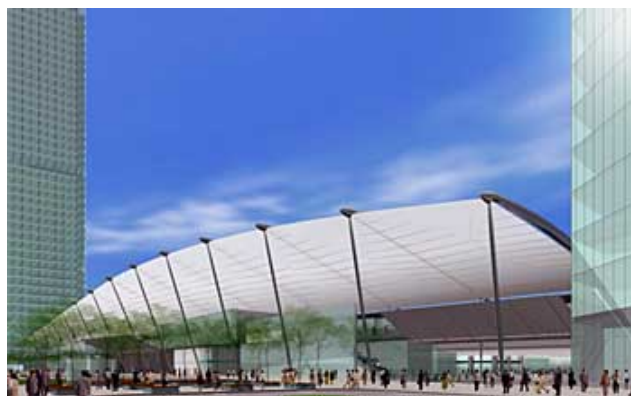


南棟

中央部

北棟

中央部



【東京駅八重洲口開発 概要】

	南棟	北中央棟		
		中央部	北棟(北ビル)	
所在地	東京都千代田区丸の内1-1-44、中央区八重洲1-208-5外			
工期	I期	II期	II期	I期
敷地面積	5,229.54m ²	14,439.18m ²		
建築面積	3,717.09m ²	12,795.01m ²		
延床面積	140,168.07m ²	216,543.47m ²		
高さ	200.0m	27.0m	70.0m	200.0m
階数	地上42階 地下4階	地上4階 地下4階	地上14階 地下4階	地上43階 地下4階
主要用途	事務所	駅施設・店舗	店舗	事務所・店舗
建物所有者	当社 JR東日本 鹿島八重洲開発	JR東日本 三井不動産 国際観光会館		
	(事務所は各社所有、百貨店を含めた店舗はJR東日本所有)			
構造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造			

以上